

(別添1)

令和7年度老人保健健康増進等事業

高齢者の自立を高めるためのリエイブルメント視点を取り入れた総合事業の普及展開に関する調査
研究事業

株式会社日本能率協会総合研究所

■目的

本事業では、リエイブルメントの考え方を取り入れた総合事業について、教育動画およびリーフレットの作成、並びに市町村への伴走支援およびセミナーの実施を通じて、効果的な普及手法および実装のあり方を検証することを目的とした。特に、支援観の転換を伴うリエイブルメントの理解促進において、体験的な学習手法の有効性や、多様な主体への普及可能性を明らかにすることを目的とした。

■事業概要

(1) 普及ツールの作成（教育動画・リーフレット）

リエイブルメントの実践を具体的に理解できるよう、リハ職同行訪問アセスメント、短期集中予防サービス、専門職の関わりを題材とした教育動画（3部構成）を作成した。また、その内容を整理したリーフレットを作成し、考え方や支援プロセスを簡潔に共有できるようにした。

(2) 市町村伴走支援の実施

モデル市町村を対象に、リエイブルメントの考え方を踏まえた総合事業の構築に向けた伴走支援を実施し、制度設計や支援の方向性の具体化を支援した。

(3) セミナーの開催

教育動画の試写を中心とした試写会形式のセミナーを開催し、動画視聴とパネルディスカッションを組み合わせることで、実践的理解の促進を図った。

■成果

(1) 教育動画を活用した普及手法の有効性

セミナーのアンケート結果では、動画の満足度が特に高く、支援の流れや対象者の変化を具体的に理解できたとの評価が多く見られた。これにより、リエイブルメントのような支援観の転換を伴う内容においては、映像による体験的理解が有効であることが確認された。

(2) 支援プロセスの可視化による理解深化

教育動画により、訪問アセスメントからサービス実施、生活の変化に至るまでの一連のプロセスを提示したことで、「できる力を引き出す支援」やセルフマネジメントの獲得過程への理解が深まった。一方で、サービス終了後の生活支援や地域での受け皿に関する課題も示された。

(3) 多様な主体への普及可能性

動画の活用意向は、専門職向け研修に加え、本人・家族や地域住民にも広がっており、普及媒体としての汎用性が確認された。医療職や行政関係者等への展開を期待する意見も見られ、地域全体の意識変容を促すツールとしての可能性が示唆された。

(4) 市町村支援による実装の具体化

伴走支援を通じて、リエイブルメントの考え方に基づく総合事業の運用設計が具体化し、制度の整理や支援の方向性の明確化が進んだ。これにより、理念から実践への移行に資する支援手法としての有効性が確認された。

(5) 今後の課題と展望

従来のサービス提供中心の考え方からの転換や、サービス終了後の地域での受け皿の確保が課題として示された。今後は、普及ツールの活用と併せて、地域の実情に応じた体制整備および人材育成を進めることが重要である。